



大里農林振興 センターだより

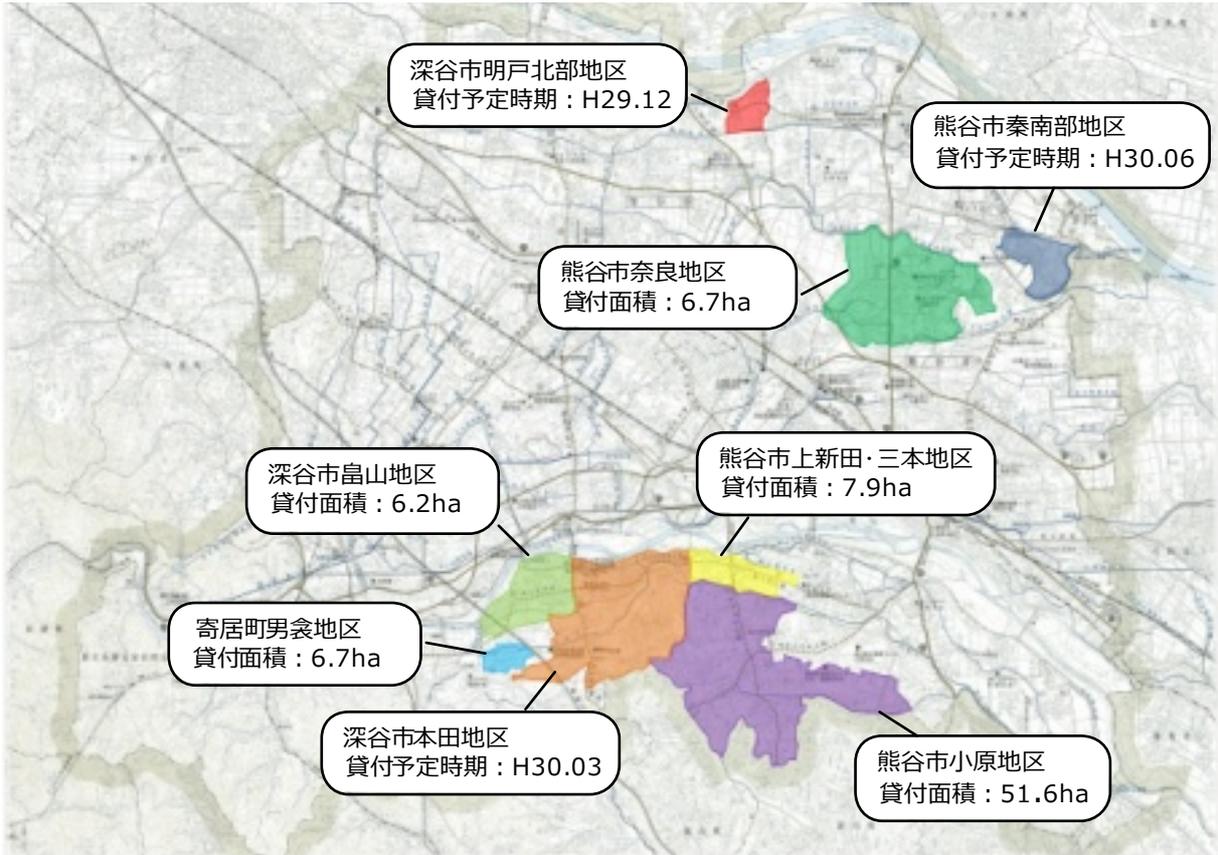
発行 埼玉県大里農林振興センター
熊谷市久保島1373-1
TEL 048-523-2812 FAX 048-526-2494
E-mail k232812@pref.saitama.lg.jp



第4号

農地中間管理事業の取組が進んでいます

大里農林振興センターでは、平成29年9月15日現在、管内の8地区で農地中間管理事業を実施しています。今後も、担い手への更なる農地集積を目指し事業を推進します。



農地中間管理事業は担い手への農地の集積等を目的に、地権者から農地中間管理機構(埼玉県農林公社)が農地を借り受けて、耕作者にまとまりのある形で農地を貸し付ける制度です。大里農林振興センター管内では、平成26年度からこれまでに、79.1haの農地が担い手に集積されました。

農地中間管理事業に係るお問い合わせは、市町農政担当課や農業委員会、大里農林振興センター【☎048-523-2814】又は埼玉県農地中間管理機構(埼玉県農林公社)【☎048-558-3555】へ御連絡ください。

もくじ

農地中間管理事業の取組が進んでいます.....表紙	高温期に対応したL Aユリ切花の品質向上対策.....5ページ
継続的・効率的な農業経営にS-GAPの導入を!.....2ページ	水田で飼料の二毛作生産に取り組もう!
大里農林管内地域指導農家の活動紹介.....3ページ	農業経営の法人化を支援します.....6ページ
平成30年度埼玉県農業大学校生募集	6次産業化の事業計画づくりについて
麦類のヤギシロトビムシの防除対策について.....4ページ	県営農業農村整備事業新規地区の紹介.....7・8ページ
ねぎ黒腐菌核病の対策について	電気柵を正しく使えば被害は防げます.....8ページ

大里農林振興センターのホームページに同じ内容で掲載しております
ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0906> 年2回発行(3、9月)

継続的・効率的な農業経営にS-GAPの導入を！

1 GAPの背景

近年、高レベルな食の安全性と信頼性が求められるようになり、農業生産の現場においても、コンプライアンスや環境に対する責任が重視されるようになってきました。

国際的にも、2020年に東京で開催されるオリンピックやパラリンピックで提供される食材調達基準が、国際的基準のGLOBAL-GAPやASIA-GAP(旧J-GAPアドバンス)等の認証が前提条件となるなど、安全性を付加した農産物の供給が欠かせないものになってきています。

2 GAPとは

Good Agricultural Practiceの頭文字です。直訳すると「良い、農業の、やり方(実践)」で、適正な農場管理を実践することです。

これは、農業に関する法律や規則、モラルを守ることにより、食品安全・労働安全・環境保全に配慮した持続的な農業を可能とする経営を行うことです。

3 S-GAPとは

埼玉県が普及推進している「埼玉県農業生産安全確認運動（S-GAP農業規範）」の取組のことです。

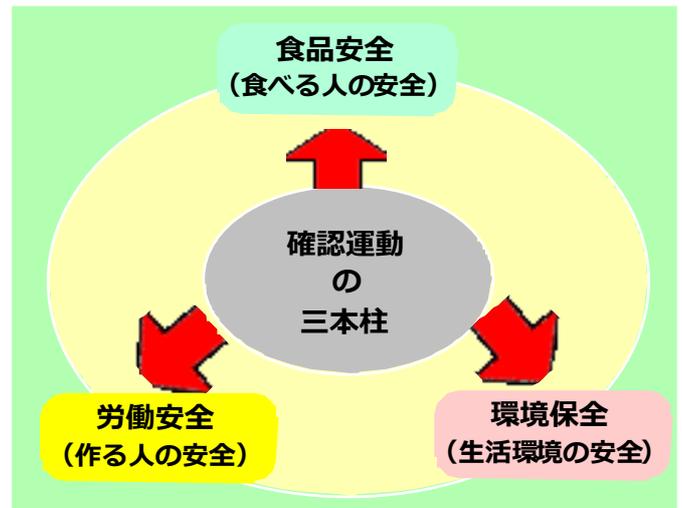
S-GAPは、国際的基準に準拠した内容でありながら、できる限りわかりやすい言葉で表現し、より取り組みやすい仕様としています。

それらを、米麦・野菜・果樹・茶それぞれにまとめた手引き（冊子）も作成しました。

また、平成28年10月からは「農場評価制度」を導入し、S-GAPに取り組む生産者を支援しています。

この農場評価制度では、一定の評価を得た農場に「S-GAP実践農場」として評価書を交付するとともに県ホームページでの公表も行います。

農場評価の方法は、生産者がチェックリストの項目を自己チェックした後、第三者（県の評価員）が審査し、農場(生産者)の取組状況を客観的に評価するものです。



4 S-GAPの具体的な取組とは

農薬容器の片付けやカギのかかる農薬保管庫の整備、資材の購入伝票の整理など、日ごろ後回しになっているようなことについて、改善の必要性を自覚し、改善が必要な点を発見し、自ら実行するのがS-GAPの取組です。

5 S-GAPで農場経営を考える

S-GAPの目的は、用意したチェックリストを埋めることではありません。自身で日頃の問題点を把握することで、農場経営の安全性が高まるとともに、資材の節減、作業の効率化による収益性の向上も期待できます。

S-GAPを導入することで経営改善が図られるとともに、消費者からの信頼を得ることにもつながります。

6 お問い合わせ

S-GAP農場評価制度や冊子のご要望、チェックリストなどに関しては、大里農林振興センター又は、県農産物安全課にお問い合わせください。

S-GAPの取組を通して、リスクに強い農業経営を実現しましょう！



大里農林管内地域指導農家の活動紹介

県では、次代の農業を担う青年農業者を育成するため、地域において優れた農業経営を行い、その農業経営を通して青年農業者の育成に指導的役割を果たしている農家を、地域指導農家として認定しています。大里農林振興センター管内では、現在27名の地域指導農家の方々に、以下のような活動を行っていただいています。

一堂に会して情報交換を行う農業教育連絡会議への参加を通じて、地域における担い手確保のための提言などを行っています。

3 視察研修会等の実施

管内の地域指導農家で組織する連絡協議会を通じて、農村女性アドバイザー（※）等とも連携し、担い手育成や6次産業化などの課題についても研修を重ねています。

※農村女性アドバイザー 農業経営などに積極的に参画し男女共同参画を推進する女性農業者

1 研修生の受け入れ

農業実習を通して、より実践的な栽培や経営技術を学習する機会として、県農業大学校生などを研修生として受入れるとともに、受け入れた研修生の就農や就農後の相談役として活躍していただいています。

2 農業教育連絡会議への参加

市町村やJA、県農業大学校、県立農業高校など各機関が



農業教育連絡会議



大学校研修生受け入れ式

平成30年度埼玉県農業大学校学生募集

埼玉県農業大学校では、平成30年度の学生募集を行います。

入学願書は「埼玉県農業大学校ホームページ」及び「大里農林振興センター」で入手できます。

●出願期間・試験日・合格発表

学科（定員 名）	入試区分	出願期間	試験日	合格発表
野菜（30） 水田複合（5） 花植木（15） 酪農（5）	推薦入試	H29.10.2(月)～10.13(金)	H29.10.27(金)	H29.11.7(火)
	一般入試	前期：H29.11.8(水)～11.17(金)	H29.12.1(金)	H29.12.12(火)
後期：H30.1.4(木)～1.12(金)		H30.1.23(火)	H30.1.31(水)	
短期農業 (短期野菜)	一般入試	前期：H29.11.8(水)～11.17(金)	H29.12.1(金)	H29.12.12(火)
		後期：H30.1.4(木)～1.12(金)	H30.1.23(火)	H30.1.31(水)

- ・短期農業学科は短期野菜専攻・有機農業専攻併せて募集定員は35名です。
- ・規定の定員を満たした学科・専攻については、一般入試後期を実施しない場合があります。

●お問い合わせ 埼玉県農業大学校 入試・教務調整担当 【☎048-501-6845】

麦類のヤギシロトビムシの防除対策について

1 被害の状況

成幼虫が幼芽や幼根を食害し、発芽不良を起こし部分的に抜け落ちたように見えます。

小麦の被害が多く大麦の被害は少ないです。は種後の低温や降雨により成幼虫の活動が活発になるため、は種が遅いほど被害が大きくなります。



成虫（体長2～3mm）



左：正常な発芽 右：甚大な被害



土壌を採取して水を入れるとヤギシロトビムシが浮く

2 ヤギシロトビムシの生態、特徴

成虫の体長は2～3mmで、白色が特徴です。

成幼虫は気温が15℃以下（10月下旬頃）から活動が活発となり、地表近くに現れます。

夏期は幼虫態で地表下15～40cm付近に夏眠します。

水を入れた容器内に、麦が発芽不良となった周辺の土壌を入れて攪拌すると、水面にヤギシロトビムシが浮上し、確認できます。

3 対策

遅まきを避け、は種適期の前半には種します。種子粉衣による防除(小麦のみ)を行います。

表 小麦のヤギシロトビムシの薬剤防除

薬剤名	使用量	使用時期	使用方法
アドマイヤー水和剤	種子重量の0.15%	は種前	種子粉衣
バッサ粉剤30DL	種子重量の3%	〃	〃

※ いずれの薬剤も登録は小麦のみ（大麦には使用できません）
記載農薬は平成29年8月15日現在の登録状況に基づいています。

ねぎ黒腐菌核病の対策について

1 黒腐菌核病の症状

初期は葉先枯れなどの症状が見られ、進展すると外葉は黄化し、葉鞘部に白いカビを生じた後、黒変し、軟化腐敗します。また、被害部分には大量の黒色の菌核を形成します。



2 病原菌の特徴

カビの一種で、比較的低温を好み、発育適温は15～20℃です。気温が10℃前後の時に激しく蔓延します。

被害部分に形成する大量の菌核が土壌中に残り、長年にわたり伝染源となります。

pHが低いほ場や排水の悪いほ場では発生リスクが高くなります。

3 これからの対策

①菌の発育適温に合わせて薬剤による防除を実施しましょう。

1回目：平均気温が20℃を下回る時期（9月下旬～10月上旬頃）

2回目：1回目の約1か月後

3回目：平均気温が5℃を上回る時期（2月下旬頃）

薬剤名	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
アフエットフロアブル	1000～2000倍 1L/m ²	生育期但し、収穫 14日前まで	株元灌注	2回
モンガリット粒剤	6kg/10a	生育期但し、収穫 14日前まで	株元散布	3回

※記載農薬は平成29年8月22日現在の登録状況に基づいています。

②台風等の豪雨時には滞水しないよう、排水対策を徹底しましょう。

③収穫期前に試し掘りをし、発生が見られる場合は、できるだけ年内（蔓延状態になる前）収穫を目指しましょう。

※収穫の際、散布した薬剤の収穫前日数に十分注意しましょう。

高温期に対応したLAユリ切花の品質向上対策

最近、特に切り花では、生産・流通・小売りと各段階で日持ち性向上技術の確立が求められています。

LAユリ（※）切り花の周年生産でも、高温期の作型における品質や日持ち性の向上が課題となっています。技術対策としては、栽培環境の改善及び収穫後の前処理剤の利用があります。

ここでは導入が始まった夜間冷房技術について紹介します。

この技術は暖房機器として普及してきたヒートポンプを夏期にも有効に活用し、球根を定植直後から3週間程度、夜温を20～22℃程度で管理するものです。

現在4戸の生産者が約7,200㎡で取り組んでいます。生育の変化としては①発根量が増加します。それにより生理障害の発生が軽減され、花数の増加、奇形花の減少がみられます。②収穫までの日数は長くなりますが、草丈は長く重量が増加し品質が向上します。③切り花として品

種間差はあるものの観賞期間が長くなります。

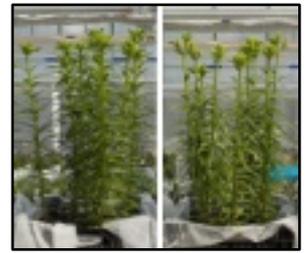
経費については、1本当たり2～3円かかりますが、上位等級（3L・2L）割合が増加し、販売単価が向上することに加え、生育が揃うことで時間のかかる出荷調整作業を効率的に行えるなど、労力軽減にもつながっています。

また、先導的に技術導入した生産者では、冷房開始直後から効果的に気温を下げ、低コストになるよう独自の工夫を行っています。

今後は、高温期に適した品種の選定及び夜冷の効果を取りまとめ、導入戸数や面積の拡大につなげていきます。



定植3週間後の発根状況
（左：夜冷区 右：慣行区）



定植5週間後の生育状況
（左：夜冷区 右：慣行区）

※LAユリ 鉄砲ユリの大輪性と透かしユリの多色性を兼ね備えた配合種

水田で飼料の二毛作生産に取り組もう！

管内では水田を活用し、イタリアンライグラスや飼料用イネなどの飼料作物が生産されています。

今後は、飼料用のイネと麦類とを組み合わせた二毛作体系を導入し、面積当たりの乾物収量の増加と自給率の向上を図りましょう。

【飼料用イネと麦類との二毛作体系】

飼料用イネは、6月中下旬移植、9月上中旬収穫（収穫時期は乳熟期～糊熟期）で、10a当たり約0.8t以上の乾物収量が得られます。また飼料用大麦は、11月上中旬は種、5月中下旬収穫（出穂期～乳熟期）で、飼料用イネと同程度以上の乾物収量が得られます。いずれも水分約50～60%程度に予乾し、サイレージとして利用できます。

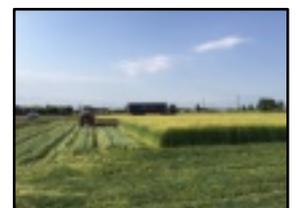
麦類の収穫から飼料用イネの移植まで約1カ月間の余裕があり、この間に家畜ふん堆肥を散布して地力維持を図ることで、年間約1.6t/10a以上の乾物収量を得ることも可能です。

【麦類の特徴】

エンバク、ライ麦、オオムギなどの麦類は、イタリアンライグラスに比べて耐湿性や予乾の早さの点ではやや劣っていますが、は種期の幅が長く、耐寒性や収量性は優れており、後作の耕起作業も容易です。今後、飼料用麦類の栽培導入をお考えの方は当センターまで御相談ください。



飼料用イネの収穫



飼料用大麦の収穫

農業経営の法人化を支援します

埼玉県では、農業経営の発展を目指す意欲ある農業者などに対し、農業経営の法人化に向けた支援を行っています。お気軽に御相談ください。

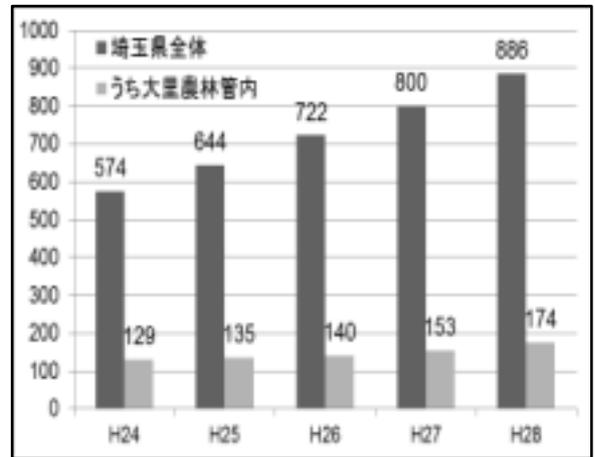
1 農業経営法人化相談窓口の設置

大里農林振興センターに「農業法人経営法人化相談窓口」を設置し、法人化を希望する認定農業者などの相談に普及指導員が対応しています。

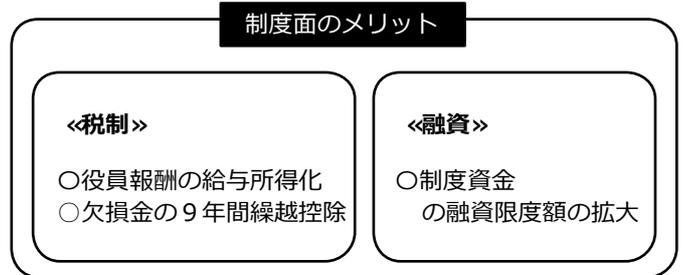
2 スペシャリストによる支援

法人化相談のうち専門性の高い相談や講習会等の要請に対しては、税理士や社会保険労務士などのスペシャリストを派遣しています。

○農業法人数の推移



○農業法人化のメリット



6次産業化の事業計画づくりについて

1 農業の6次産業化とは

農業者が農産物の生産（1次産業）に加え、加工（2次産業）や流通・販売（3次産業）にも主体的にかかわり、農業経営に新たな付加価値を取り込むことです。「1次×2次×3次＝6次」

2 「農業の6次産業化事業計画書」について

埼玉県では、農業の6次産業化を支援するため「農業の6次産業化事業計画書」（経営ビジョンシート）を作成しています。これは、6次産業化に「すでに取り組んでいる方」や「これから取り組もうとする方」の構想をまとめる計画書の様式です。

3 「農業の6次産業化事業計画書作成

ガイド」に従って考えをまとめていく

いきなり計画書に自分の構想を書いていくのは難しいことです。まずは「農業の6次産業化事業計画書作成ガイド」を利用してみてください。

ガイドの項目を埋めることで、段階的に6次産業化の構想が形になっていきます。

このガイドに記載した内容を「農業の6次産業化事業計画書」に転記することで、6次産業化の事業計画書を作成することができます。

なお、新たな取組や、アイデアが生じた際は、必ず計画書を見直して、より実践的な計画になるように心がけることが重要です。

大里農林振興センターでは、事業計画書作成に向けた支援の他、作成した事業計画の内容に応じて、段階的に発展できるよう商品開発や販路開拓等の支援・相談を行っています。ぜひ、当センターへお問い合わせください。

※計画書やガイドは、埼玉県HPからダウンロードできます。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0902/6jisangyoka/jigyoukeikakusho.html>

県営農業農村整備事業新規地区の紹介

1 ほ場整備事業（経営体育成型）

池上地区

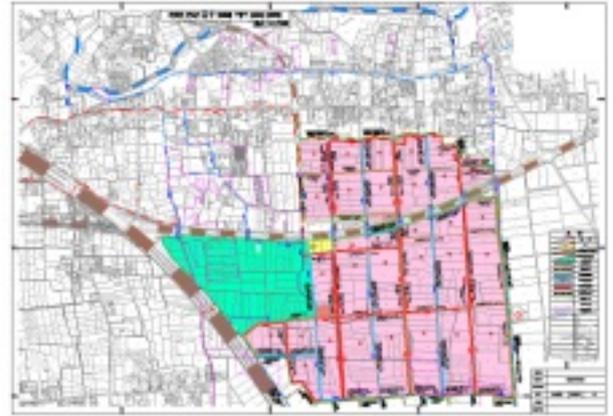
本地区は熊谷市東部に位置し、地区内に行田市の飛地が点在する平坦な水田地帯で、地区の西側には国道17号熊谷バイパス、中央部に国道125号バイパスが横断している区域です。

地区内の農地は過去の条里制の遺構を残した10a～25aの不整形な小区画であり、ほ場内の用・排水路は土水路で未分離であることから、用水の適正な配分、排水に支障を来しています。

また、道路は狭く区画に沿って蛇行しており、現在の農業形態では効率的な営農や農地集積が進まない状況です。



すれ違いが困難な農地内の道路



現況計画平面図

このため、担い手への農地集積や農業の生産性向上を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備を行うことにより、本地域の農業競争力の強化を図っていきます。

事業概要	
区域面積	68.8ha(受益面積 49.8ha)
事業期間	平成29年度～平成34年度(予定)
事業内容	区画整理工(整地工、道路工、用水路工、排水路工、暗渠排水工)、換地

2 農地防災事業

（農業用河川工作物応急対策事業）

江袋地区

江袋堰は、熊谷市上江袋の一級河川福川に設置されている農業用水の取水堰で、県内では珍しい規模の大きなラバー堰（※）です。

この堰は、昭和58年に河川改修工事により設置されましたが、その後34年が経過し、経年劣化により袋体内部に水が浸入するようになり、通常の堰の操作が困難な状況となっています。

もし袋体が膨らまず農業用水の取水が出来なくなった場合には、受益である176haの水稲の生産が困難となるため、堰を管理している



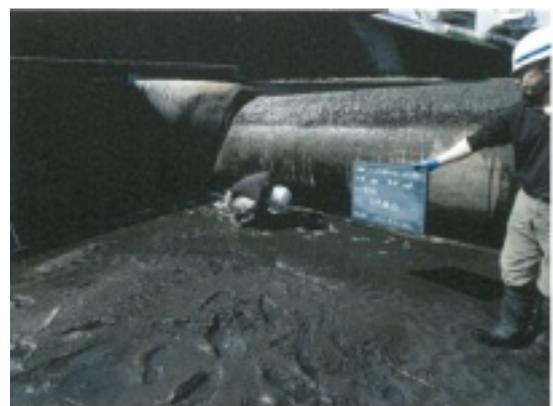
内部に水が入り完全に膨らまない袋体

江袋溜井土地改良区では、非常に難しい堰の管理を余儀なくされています。

このような状況から、農業用水の安定供給や福川の治水安全性の確保を目的に、袋体及び付帯設備などを更新する工事を実施することになりました。

本年10月から工事に着手し、事業の完了は平成31年度の予定です。

※ラバー堰 ゴム引布製起伏堰の略称の一つ。ゴム堰と呼ばれることも。細長い風船の様な袋体に空気を入れ膨らまし、川を堰き止めて取水するタイプの堰です。



袋体の気密性の確認状況

3 農地防災事業（農業用ため池 緊急耐震化対策事業）

円良田湖地区

円良田湖は、県営かんがい排水事業により昭和17年から昭和29年にかけて造成された「ため池」です。周囲の山地から集水、貯水された水は農業用水として、寄居町、美里町、深谷市の水田142.6haを灌漑しています。

東日本大震災では、農業用ため池によって甚大な被害が発生しました。震災から得られた教訓を活かして、大規模自然災害への備えを行うことが重要となっています。そこで、地域の方々の暮らしと農業用水の水源を守るため、詳細な耐震調査を行い、堤体の耐震化や監視体制の強化などの対策を進めていきます。



堤体上流側



堤体上道路

事業概要	
区域面積	142.6ha
事業期間	平成29年度～平成32年度(予定)
事業内容	調査設計 1式 耐震補強 1式

電気柵を正しく使えば野生鳥獣の被害は防げます

1 よく見られる電気柵設置の間違い

① 防御が終わっても電線（電気柵）を張りっぱなし

電気柵は動物が安全を確認する動作（探査行動）を利用して感電させ、危険を学習させて農作物を守ります。電気柵を設置している間は通電し動物が慣れないよう管理してください。通電していない状態に動物が慣れると、その後通電しても効果はありません。

② 雑草に埋もれた電気柵

雑草等により漏電した場合、通電していないのと同じで電気柵の効果は発揮できません。

2 電気柵設置のポイント

電気柵の効果を高めるため、作物と電気柵の間を50cm以上あけましょう。作物が近いと動物は作物に執着して柵の効果が落ちます。

3 鳥獣被害対策の御相談は農業支援部まで

野生鳥獣から農作物を守るには、加害獣を特定し適切な防御対策を実施することが重要です。県農業技術研究センターが開発した電気柵「楽落くん」は、アライグマ等の中型動物を対象にした高さ40cmの柵で、設置が簡単で防御効果は各地で実証されています。

当センターでは、動物に反応して撮影するセンサーカメラも整備して加害獣の特定や防御対策の支援を行っています。お困りの方は御相談ください。

秋の農作業事故ゼロ運動 平成29年9月1日～11月30日

収穫作業など農業機械の利用が多い時期です。事故防止のため以下のポイントに注意しましょう

- ・ 作業中の点検・清掃は必ずエンジン停止！
- ・ 作業開始前には足元・周囲の障害物を確認！
- ・ ほ場の進入・退出、移動中のトラクタ運転は慎重に！



コバトン